## 下関北九州道路(関門海峡道路)整備促進大会



平成26年8月6日(水)下関市において、「下関北九州 道路(関門海峡道路)整備促進大会」が開催され、当連 合会関門連携委員会から福田委員長をはじめ10名が参 加した。

この大会は、関門海峡を結ぶ新たなルートの早期建設を求めるもので、「下関北九州道路整備促進期成同盟会」、「関門海峡道路建設促進協議会」、「中国経済連合会・九州経済連合会関門連携委員会」の共催で行われ、約150名が参加した。

小川福岡県知事らの主催者挨拶、地元選出議 員の来賓挨拶に続き、経済界を代表して福田関 門連携委員会委員長が意見提言を行った。福田 委員長は、現行ルートの遮断リスク・経済損失 に触れた上で、経済圏の規模からみても新ルー トの建設は当然と訴えた。

大会は、下関北九州道路の早期実現に向けた 調査を国に求める決議を採択して閉会した。

(担当:中村)

## 決議

関門地域(下関市・北九州市)は、古くから対岸の両地域が密接につながり、産業、経済、文化など、様々な面で緊密に交流・連携し、都市圏が形成されてきた。また、ヒトやモノが活発に行き交う要衝の地として今日まで栄えてきている。

近年は、我が国の自動車をはじめとする産業・経済をリードする地域として、また、成長著しい東アジアのゲートウェイとしての役割も期待されている。

このような関門地域の強みや特色を活かし、更なる地域の自立的発展を図っていくためには、地域間の交流・連携をより一層深化させることが必要であり、そのためには、基盤となる道路網の充実・強化が急務である。

また、今年6月に策定された「国土強靱化基本計画」では、「強さ」と「しなやかさ」を持った安全・安心な国土・地域・経済社会の構築に向け、「人流・物流の大動脈及び拠点については、大規模自然災害により分断、機能停止する可能性を前提に、広域的、狭域的な視点から代替輸送ルートを早期に確保する」とされており、大規模災害時にも機能する、信頼性の高いネットワークの構築が強く求められている。

しかしながら、下関市と北九州市を繋ぐ関門橋は供用開始から40年、関門トンネルは56年が経過しており、近年、施設の老朽化に伴う補修工事や、悪天候、事故の発生による通行制限が頻繁に行われている。このため、関門地域における安定的な交通機能の確保、ひいては本州と九州の連絡強化が喫緊の課題となっている。

こうした地域のニーズや課題に的確に応えていくためには、"下関北九州道路"を早期に整備し、関門橋や関門トンネルと一体となって環状道路網を形成することにより多重性を確保するとともに、大規模災害時等における代替性を確保することが必要不可欠である。

このため、我々は、本会の総意に基づき、下記の事項について、強く要望する。

記

- 1 下関北九州道路の早期実現を図ること
- 2 実現に向けて、必要な調査を実施するとともに、具体的な方策の検討を進めること
- 3 これらの調査・検討に必要な予算を確保すること

以上、決議する。 平成26年8月6日

> 下 関 北 九 州 道 路 整 備 促 進 期 成 同 盟 会 関 門 海 峡 道 路 建 設 促 進 協 議 会 中国経済連合会・(一社)九州経済連合会関門連携委員会